

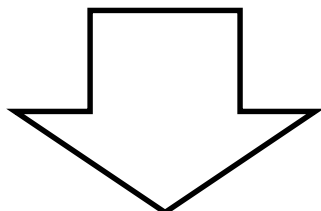
『横串と団子・2016』 ー好循環サイクルの加速化ー  
自由民主党  
経済好循環実現委員会  
委員長 新藤義孝

〔 GDP600 兆円経済の「エンジン」 〕

- 日本経済再生本部・経済好循環実現委員会では、『横串と団子・2016』ー好循環サイクルの加速化ーとして、昨年6月に選定した「プロジェクト“10”」について、GDP600 兆円経済の「エンジン」とすべく、「自由討議」を重ね、新たな提言をとりまとめた。
- この提言では、各省庁の施策に「横串」を通して連携を確保し、プロジェクトの成果を「団子」として国民の目に見える形で実現していくという考え方を更に進めるとともに、「プロジェクト“10”」について、共通する「規制改革」や「人材育成」などの課題に積極的に取り組み、予算、税制など政策資源を集中投入して、経済好循環の拡大・深化の原動力とすることが重要としている。

〔 主要な提言 〕

- 「主要な提言」として、2020年に実現すべき未来の姿を4つ提示している。
  - ・ 「JAPANカード」構想は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを機に、世界から数多く来日する観光客にICカードを交付して、オリンピック会場の入場管理はもちろん、プリペイド機能や交通カード、ポイントカードなど幅広い機能を持たせて、滞在中の買い物や移動などの活動を一枚のカードでまかない、「ICT先進国家」を強く世界にアピールしようというもの。



さらに、マイナンバーカードのシステムの活用を検討することにより、訪日外国人だけでなく、広くマイナンバーカードの利用の展開につながることから、地域経済好循環や経済成長にも資することが期待される。

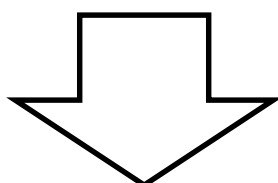
- ・ 「農林水産物輸出のための海外現地ステーション構想」は、国内の卸売市場を農林水産物輸出のワンストップ拠点にする取組みとあわせて、海外においても、現地で輸入手続や配送などを行う我が国の拠点として、「供給ステーション」を官民連携により構築し、農林水産物・食品の輸出拡大を図ろうとするもの。

これにより、「攻めの農業」を支える基盤を整え、農林水産業の活性化はもちろんのこと、空港やアクセス道路など関連する社会資本整備が進み、地域における経済好循環と「地方創生」が進むこととなるもの。

- ・ 「観光立国強化プラン」は、我が国の成長に重要な役割を持つ「観光」分野に関して、空港・港湾のゲートウェイ機能強化や地域のブランディング戦略の展開を推進して、観光の強化と「地方創生」につなげていくもの。

これに加え、訪日外国人の利便性のため、「AR ソリューション」（スマホを「日本語」にかざすと画面上で「外国語」に置き換わる技術）や、AI を取り入れたグローバルコミュニケーション計画（多言語音声翻訳技術の研究開発）などの先端の ICT 技術の活用を提言している。

さらに、(先に述べた) 「JAPAN カード」構想との連携を図ることによって、我が国の「観光力」をさらに高めることが可能となるもの。



- ・ 「G 空間 2.0」構想は、衛星を活用した地理データや位置データを幅広く「G 空間情報センター」に集積して、ここを横串連携の基盤として、例えば、防災分野においては、津波や火災から最も安全なルートで避難誘導を行うことが、停電時であっても可能になり、また、農業分野におけるトラクターの自動走行、交通分野における交通渋滞回避のためのスマート課金システム（道路ごとの混雑状況に応じて料金を変えるもの）など、様々な分野でビジネスや社会的課題の解決が可能となるものであり、こうした G 空間情報の有効活用に向けて積極的に取り組む必要がある。

〔 提言の実現に向けて 〕

- 提言の実現に向けては、個々のプロジェクトへの提言への対応とともに、プロジェクト“10”に共通の課題への取組みも重要である。

例えば、ICT 社会に対応した行政手続の「対面・書面原則の見直し」や、無人走行に関する国際条約等の見直しなどの「規制改革」、ロボット利活用のコーディネーターや地域観光の担い手をはじめとした各分野の「人材育成」などが挙げられ、こうした共通課題に積極的に取り組み、プロジェクトの社会実装に向けて、さらなる前進を図ることが重要である。

- さらに、この秋に新たに「プロジェクト“10”<sup>バージョン・ツー</sup> v e r 2.0」を選定し、経済の好循環サイクルを一層加速化していくこととしている。
- なお、2枚目には「参考」として、プロジェクト“10”ごとの提言とそれぞれに共通する課題について、その概要を整理しているので、ご覧いただきたい。